

右俣は、次から次へと適当に滝が出てきて、あきることはない。簡単に直登でき、沢の入門コースとして最適である。

左岸から支沢が入り、4 mの滝を越すと、沢は明るくなり伐採地に出る。さらに進むと、やがて沢は傾斜を増してくる。約1時間登った所で遊行終了とする。あとは左俣めざしてヤブをこぐ。20分でなだらかな尾根に出た。ヤブはそう濃くない。

(記)

[タイム] 烏川林道6号橋(10:50)→下文殊沢出合(10:55)→二俣(11:05)→遊行終了(12:00, 12:10)→尾根(12:30)

### 下文殊沢左俣(下降)

1985年9月28日

L4

右俣の遊行を終えてから左俣の下降に移る。尾根のヤブはそう濃くなく、楽に下降点に移動できた。

すぐに沢の上部に出る。源頭は落葉で覆われていた。多少肌寒く、沢歩きの季節としては少々遅いようである。

下降を開始し、いくつかの支沢を合わせると、沢床はナメとなる。沢全体がナメのようであるが、所々倒木や石がつかまっていて、景観がだいなしである。

最初の滝は、左岸からの小沢が合わさる3段になった6 mの斜瀑である。あとはもう大きな滝はなく、1~2 mの小滝が出てくる程度である。最後に3段の連瀑となったのがせめてものなぐさめであった。

右俣を合わせ、烏川との出合まで降りて下降終了となる。(記)

[タイム] 下降開始(12:40)→右俣出合(13:50)→烏川出合(13:55)

### 三本松沢左俣(下降)

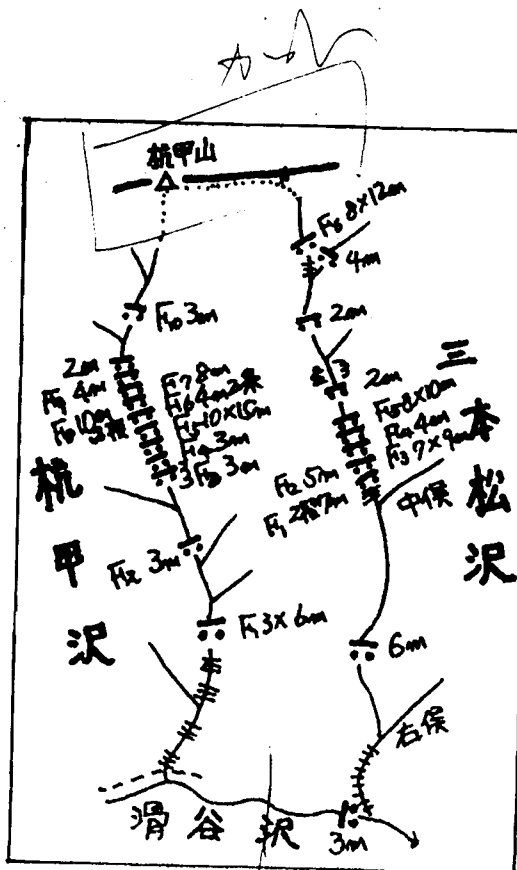
1985年9月22日

J

杭甲山山頂より北側のコルに向けてヤブをこぐ。ここにはかすかな踏跡が残されているが、ほとんどヤブにうめつくされようとしている。

コルより下降開始。すぐ沢に出て、8×12 mのナメ滝。これを降りると、すぐ左岸から4 m滝をかけて小沢が合流する。ここで昼食をとり、再び下降再開。

小滝を越すと、今度はミニゴルジュ。しかし、通過に困難はない。やがて、5 m前後の小滝が連続するようになるが、いずれの滝もクライミングダウンにて下



降可能。そのあとすぐ中俣を合わせ、沢は平凡となる。

このまま終わるのかと思ったら、右俣を合わせたあとにきれいなナメが出てきた。滑谷沢との出合まで続く。最後は気分よくしめくることができた。

(記・)

[タイム] 杭甲山(11:00)→コル(11:15)→中俣出合(12:00)→滑谷沢出合(12:20)

### 杭甲沢

1985年9月22日

Lj

粟子トンネル手前に車を置き、旧国道(廃道)を滑谷沢出合まで歩く。滑谷

沢を少し下って杭甲沢出合へ。出合はヤブがかかり、ともすれば見逃しやすい。あとでわかったことだが、旧国道からここまで、踏跡がある。

9:35遡行開始。出合のヤブはすぐになくなり、沢らしい形態となり、ナメが断続的に出てくる。やがてF<sub>1</sub>。3×6mのナメ滝で、軽くパス。

F<sub>2</sub>。3mもなんなく越え、二俣となる。水量の多い右俣に入る。

沢が左に曲がる所にF<sub>3</sub>。3mがかかり、そこより核心部となる。8個の滝が続くが、いずれも直登でき、なかなか良い遡行となる。

左より小沢が入り、F<sub>10</sub>。3mを過ぎると、水も少なくなる。やがて沢はルンゼ状となって水も濁れる。ルンゼを登りつめ、あとはヤブこぎ15分で杭甲山頂上に突き上げた。

(記・)

[タイム] 杭甲沢出合(9:35)→遡行終了(10:30)→杭甲山(10:50)

### 桂沢(下降)

1985年9月22日

L

旧国道より沢へ。入口部分がひどいヤブだったが、すぐに歩きやすくなり、沢